

山口市文学碑巡り No18 番外編①（宇治対鳳庵一山頭火句碑）

宇治平等院の傍らの茶室対鳳庵前に山頭火の句碑が建っています。“春風の 扉開けは 南無阿弥陀佛”と刻まれています。昭和 11 年 3 月 22 日に宇治を訪れ、3 月 25 日の日記に（宇治）として“春風へ 扉開いて 南無阿弥陀仏”と記されています。“春風へ扉開いて”が“春風の扉ひらけば”と変わっているのが気になりますが…。この年は 7 月まで旅に出て、行乞として知人宅を転々としていましたが、恐らくその途中に宇治に立寄った時の句に違いありません。平等院を前にして鳳凰堂が扉を開かれていた光景を、擬人的に鳳凰堂が春風に誘われて風に向かって開いた様に感じたのでしょうか？山頭火は詳細に彼の現実を暴露して自らの悲哀を惜しげも無く晒し日記に認めています。平成 15 年 8 月 2 日に小生が平等院を訪れた際、郷土の俳人の句を見付けて思わず親しみを覚えました。当時写した写真を紛失してしまい、この度改めて小生と同期の北川雅博君（宇治在住）にこの写真を送って貰いました。宇治の旅で、この他に以下の三句が記されていました。

うらゝかに 鐘をつかう（撞こう）
御堂のさびも 春のさゝ“なみ
たたずめば 風わたる空の 遠く遠く

春風の 扉ひらけは 南無阿弥陀佛



（76 期 厚東一生 写真提供北川雅博君）